鹿児島県埋蔵文化財調査報告書(56)

奄美地区埋蔵文化財
分布調査報告書Ⅲ

平成２年度

1991年3月

鹿児島県教育委員会

序　　文

近年，奄美大島地区では新奄美群島振興開発計画関連の諸開発事業が急速に進められており，埋蔵文化財保護と開発事業との調整を図るうえで，詳細な埋蔵文化財包蔵地の分布状況の把握が必要となってきています。

このため，県教育委員会では，昭和62年度は徳之島地区，昭和63年度は奄美大島本島南部地区の埋蔵文化財分布調査を実施し，その結果をそれぞれ奄美地区埋蔵文化財分布調査報告書Ⅰ・Ⅱとして刊行できたところです。今回は，これに引き続き実施した平成元年度・2年度の奄美大島本島北部・喜界島地区、沖永良部島・与論島地区の分布調査結果をとりまとめ，奄美地区埋蔵文化財分布調査報告書Ⅲとして刊行するものです。

発掘調査と報告書作成に御協力いただきました関係各位に対し，心から感謝申し上げます。

平成3年3月

鹿児島県教育委員会
教育長　大田　務

例　言

1　本報告書は平成元・2年度に実施した奄美地区埋蔵文化財分布調査の報告書である。

2　平成元年度は奄美大島北部と喜界島，2年度は沖永良部島と与論島を調査対象地区とし，田畑一筆ごとの悉皆調査を基本として行い，一部試掘調査も実施した。

3　本書の遺跡地名表は，昭和59年度に作成した「鹿児島県市町村別遺跡地名表」に準拠し，遺跡番号もこれと一連のものとした。

4　本書に用いたレベル数値は，すべて海抜絶対高である。

5　本書で用いた遺物番号は挿図中の実測図と写真とは一致する。

6　遺物の実測，製図，写真撮影は元年度は長野真一・鶴田静彦，2年度は大野重昭・弥栄久志が分担して行った。

7　本書の執筆・編集は長野・鶴田・大野・弥栄が分担して行った。

目　次

序　文
例　言
第Ⅰ章　調査の経過 …… 4
　第1節　調査に至るまでの経過 …… 4
　第2節　調査の組織 …… 4
第Ⅱ章　平成元年度の調査 …… 5
　第1節　調査の経過 …… 5
　第2節　各市町村の遺跡 …… 6
　　1　喜界町の遺跡 …… 6
　　2　名瀬市の遺跡 …… 11
　　3　竜郷町の遺跡 …… 14
　　4　笠利町の遺跡 …… 16
第Ⅲ章　平成2年度の調査 …… 25
　第1節　調査の経過 …… 25
　第2節　沖永良部島・与論島の位置及び環境 …… 27
　　1　沖永良部島 …… 27
　　2　与 論 島 …… 27
　第3節　各町の遺跡 …… 28
　　1　和泊町の遺跡 …… 28
　　2　知名町の遺跡 …… 36
　　3　与論町の遺跡 …… 41
　第4節　まとめにかえて …… 45

挿 図 目 次

第１図　荒木海岸遺跡近景(写真) …… 6
第２図　小野津八幡神社遺物(写真) …… 6
第３図　喜界町採取品(志戸桶貝塚・荒木海岸遺跡) …… 7
第４図　志戸桶貝塚近景・遺物包含層(写真) …… 7
第５図　山口うと氏所蔵品・当地出土品(写真) …… 8
第６図　喜界町遺跡分布地図 …… 10
第７図　名瀬市採取品(小湊遺跡) …… 11
第８図　小宿地崎海岸遺跡・朝仁貝塚(写真) …… 12
第９図　名瀬市遺跡分布地図 …… 13
第10図　瀬連２遺跡・野原Ｂ遺跡(写真) …… 15
第11図　野原Ａ遺跡・アオン浜遺跡(写真) …… 16
第12図　竜郷町遺跡分布地図 …… 17
第13図　用植物園遺跡・用長浜遺跡(写真) …… 18
第14図　笠利町採取品(サウチ・泉川・用植物園遺跡) …… 19
第15図　笠利町採取品(辺留窪・宇宿小第２・宇宿貝塚・ナピロ川遺跡) …… 20
第16図　笠利町採取品(明神崎遺跡) …… 21
第17図　笠利町遺跡分布図 …… 24
第18図　奄美諸島 …… 27
第19図　小手野遺跡近景 …… 28
第20図　小手野遺跡の出土遺物 …… 28
第21図　小手野遺跡の地形図 …… 29
第22図　小手野遺跡のトレンチ配置 …… 29
第23図　小手野遺跡の遺物出土状況 …… 30
第24図　小手野遺跡の土層と遺物出土状況 …… 31
第25図　小手野遺跡の出土遺物１(写真) …… 31
第26図　小心野遺跡の出土遺物２(写真) …… 31
第27図　小手野遺跡の出土遺物３(写真) …… 32
第28図　小手野遺跡の出土遺物４(写真) …… 32
第29図　小手野遺跡の出土遺物１ …… 32
第30図　小手野遺跡の出土遺物２ …… 33
第31図　小手野遺跡の出土遺物３ …… 34
第32図　畦布ナーバンタ遺跡の採集遺物(写真) …… 35
第33図　畦布ナーバンタ遺跡の採集遺物 …… 35
第34図　スセン當遺跡の採集遺物 …… 36

第35図　スセン當遺跡の採集遺物(写真) …… 37
第36図　千間遺跡の採集遺物(写真) …… 37
第37図　千間遺跡の採集遺物 …… 37
第38図　泊り遺跡の地形 …… 38
第39図　泊り遺跡の採集遺物(写真) …… 38
第40図　泊り遺跡の採集遺物 …… 39
第41図　北登五良遺跡・茶泊遺跡・ハギビナ遺跡 …… 41
第42図　北登五良遺跡遠景 …… 42
第43図　北登五良遺跡の採集遺物(写真) …… 42
第44図　北登五良遺跡の採集遺物 …… 42
第45図　茶泊遺跡近景 …… 43
第46図　茶泊遺跡の貝層 …… 43
第47図　茶泊遺跡の採集遺物(1) …… 43
第48図　茶泊遺跡の採集遺物(2) …… 43
第49図　茶泊遺跡の採集遺物(写真) …… 44
第50図　正遺跡の地形 …… 44
第51図　正遺跡近景 …… 44
第52図　沖永良部島の遺跡分布地図 …… 46
第53図　与論島の遺跡分布地図 …… 47

表　目　次

第1表　喜界町遺跡地名表(1) …… 8
第2表　喜界町遺跡地名表(2) …… 9
第3表　名瀬市遺跡地名表 …… 12
第4表　竜郷町遺跡地名表(1) …… 15
第5表　竜郷町遺跡地名表(2) …… 16
第6表　笠利町遺跡地名表(1) …… 21
第7表　笠利町遺跡地名表(2) …… 22
第8表　笠利町遺跡地名表(3) …… 23
第9表　和泊町遺跡地名表 …… 35
第10表　知名町遺跡地名表(1) …… 39
第11表　知名町遺跡地名表(2) …… 40
第12表　知名町遺跡地名表(3) …… 41
第13表　与論町遺跡地名表 …… 45

第Ⅰ章　調査の経過

第1節　調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会は奄美群島振興開発地域の奄美地区1市13町について埋蔵文化財分布調査を昭和62年度から平成2年度までの予定で計画した。

これは，奄美地区の諸開発計画の施行に際して埋蔵文化財保護と開発事業との調整のための資料を得ることを目的としたものである。

調査にあたっては，文化庁全国遺跡分布調査要項（昭和46年4月）に準拠し，埋蔵文化財を中心に悉皆調査を行い，必要に応じて試掘調査を実施することとした。

昭和62年度は徳之島3町，昭和63年度は奄美大島南部4町村，平成元年度は奄美大島北部1市2町と喜界町，平成2年度は沖永良部島2町と与論町を対象にして分布調査を実施した。

第2節　調査の組織

調査主体者	鹿児島県教育委員会	教育長	濱里　忠宣(平成元年度)
		教育長	大田　務(平成2年度)
調査責任者	鹿児島県教育庁文化課	課長	吉井　浩一
調査企画担当者	〃	課長補佐	奥園　義則(平成元年度)
	〃	課長補佐	濱松　巌(平成2年度)
	〃	主幹	立園多賀生
	〃	主任文化財研究員 兼埋蔵文化財係長	吉元　正幸
調査担当者	〃	主査	長野　真一(平成元年度)
	〃	文化財研究員	鶴田　静彦(　〃　)
	〃	主査	弥栄　久志(平成2年度)
	〃	文化財研究員	大野　重昭(　〃　)
調査事務担当者	〃	企画助成係長	京田　秀允(平成元年度)
	〃	主幹 兼企画助成係長	濱崎　琢也(平成2年度)
	〃	主査	平山　章
	〃	主事	末永　郁代

なお，調査にあたって名瀬市，竜郷町，笠利町，喜界町，和泊町，知名町，与論町の各教育委員会及び鹿児島県大島教育事務局の協力を得た。また，各市町村の文化財保護審議会には情報の提供を頂いた。

第Ⅱ章　平成元年度の調査

第1節　調査の経過

本年度は，奄美大島北部1市2町と喜界町を調査対象とし，喜界町を皮切りに，名瀬市・笠利町・竜郷町の調査を行った。

調査の経過については，以下日誌抄にて略述する。

平成2年2月13日　喜界町着。町教育委員会にあいさつ及び今後の調査についての打合せ。中里方面の調査。

2月14日　荒木農道遺跡周辺及び荒木集落内の調査。川嶺集落にて類須恵器の写真撮影。

2月15日　町中央公民館所蔵遺物の写真撮影。志戸桶方面の調査，志戸桶貝塚の確認の結果，広範囲に分布しているが破壊された範囲も大きいことが判明した。当地出土の類須恵器写真撮影。本日で喜界町の調査終了。

2月16日　名瀬市着。大島教育事務局・名瀬市教育委員会にあいさつ及び今後の調査についての打合せ。奄美歴史民俗資料館所蔵遺物の写真撮影。知名瀬・根瀬部・大浜海岸周辺の調査。

2月17日　小湊方面の調査。小湊集落内で兼久式土器を大量に包含する遺跡に接す。近世陶磁器等も散布している。

2月19日　芦ケ部・有良方面の調査。

2月20日　午前で名瀬市の調査終了。午後より笠利町の調査開始。

2月21日　サウチ・屋仁・方面の調査。用植物園周辺にて遺物多数採集。

2月22日　ヤドリ浜・佐仁方面の調査。

2月23日　土浜方面の調査。

2月24日　笠利町歴史民俗資料館所蔵遺物の写真撮影（類須恵器・貝札）。本日で笠利町の調査を終了。

2月26日　竜郷町の調査開始。町教育委員会にあいさつ及び今後の調査についての打合せ。瀬連・根原方面の調査。

2月27日　手広遺跡周辺・加瀬間コシマ方面の調査。

2月28日　町中央公民館所蔵遺物の写真撮影。

3月1日　本日午前で竜郷町の調査を終了。午後，市内在住の研究者里山勇廣氏の協力を得て名瀬市の補充調査。

3月2日　小宿海岸遺跡の調査。包含層の露出部分を確認。

3月3日　遺物の梱包。本日をもって分布調査を終了。

第2節　各市町村の遺跡

1　喜界町の遺跡

昭和61年喜界町教育委員会は，熊本大学考古学研究室に依頼しハンタ遺跡の発掘調査を行い，同時に町内の先史遺跡の分布調査を実施し，35カ所の遺跡を確認している。その調査結果は，ハンタ遺跡の調査報告書に詳細に記載されている。

今回の調査では，荒木・中里・伊実久・小野津・志戸桶の各集落を中心に，周辺の海岸線・砂丘地・畑地等を対象とした。調査の結果，新たに確認した遺跡としては，荒木海岸遺跡のみであるが，周知の遺跡・貝塚等の再確認で新たに明らかにできたものもある。

荒木海岸遺跡（90—41）

荒木貝塚と県道をはさみ対面する海岸砂丘地が，遺物包含地である。砂丘は，生成位置・色調等からいわゆる新期砂丘に相当する。遺物包含地一帯は，砂採取による破壊が進んでいるが土器片や貝殻等が散在している。

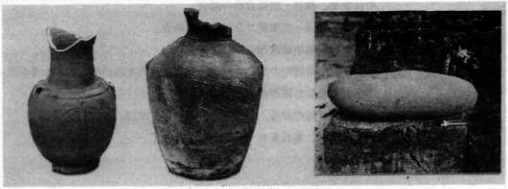
第1図荒木海岸遺跡近景

山形口縁をなす土器片で，口唇部内側から縦位の粘土紐を貼りつけ，さらに文様帯の下位にも横位の粘土紐を巡らす。口唇部には刺突・器面には櫛状工具による平行線文を描く。

小野津八幡神社遺跡・遺物（40—12）

小野津集落の北側端に祭られた神社で，新期砂丘地に位置している。須恵器の小壺と白磁の瓶の2点が境内内の祠に祭られている。さらに，この一帯は遺物包含地の可能性が高く，大型の磨石も採取できる。

須恵器の小壺は，灰色で軟質・肩口に取っ手がつき，平行線様の叩き痕が残されるが肩口から口縁部にかけてはていねいにナデ消している。



第2図小野津八幡神社遺物

志戸桶貝塚（90—10）

小野津から志戸桶集落に向かう幹線道の両側に分布する砂丘性の貝塚で，かなりの範囲で遺物・貝殻等が採取できる。しかし，畑地整備事業が進められ砂壊された部分も大きいと判断できる。

貝塚を包含する砂丘は，志戸桶集落を望む東海岸に面した旧期砂丘に相当する。

第3図　喜界町内の採取品

志戸桶貝塚・荒木海岸遺跡

採取遺物の主なものは，面縄前庭式土器・面縄東洞式土器・嘉徳式土器等の縄文時代後期に該当する土器群である。さらに，それらに共ない磨石・叩き石や螺蓋製貝斧等も見られる。

写真で示したように，貝層を含む遺物包含層が壁面や畑地の畦畔等で露出している状況を観察できる。

第4図 志戸桶貝塚近景（南から望む）

遺物包含層

当地（90—35）

竹下軍陸氏が所蔵している，類須恵器（カムイヤキ系小壺）５点と１点の滑石製石鍋が出土している。５点の小壺の概要は，おおよそ次のとおりである。

	文様	器高	口径	胴部径	底部径cm	叩き痕	
1	無文	13.1	8.6	15.5	9.0	外 指頭ナデ	内 格子
2	2条波紋	13.5	8.8	15.5	8.5	外 指頭ナデ	内 格子
3	4条波紋・1条沈線	14.6	9.8	16.8	11.9	外 へらケヅリ	内 半月状
4	6条波紋・2条沈線	13.2	10.8	16.8	10.7	外 綾杉後指頭ナデ	内 格子・半月状
5	8条波紋	19.3	13.3	23.0	12.5	外 綾杉	内 格子

次に，石鍋には多量の煤が付着しており，やや白色の強い滑石を素材としている。高さ11.0cm・口径19.0cm・胴部径22.4cm・底部径15.0cmである。

第５図 山口うと氏所蔵品

当地出土品

川嶺の山口うと氏は，所有地から出土した類須恵器の小壺と双耳小壺を所蔵している。

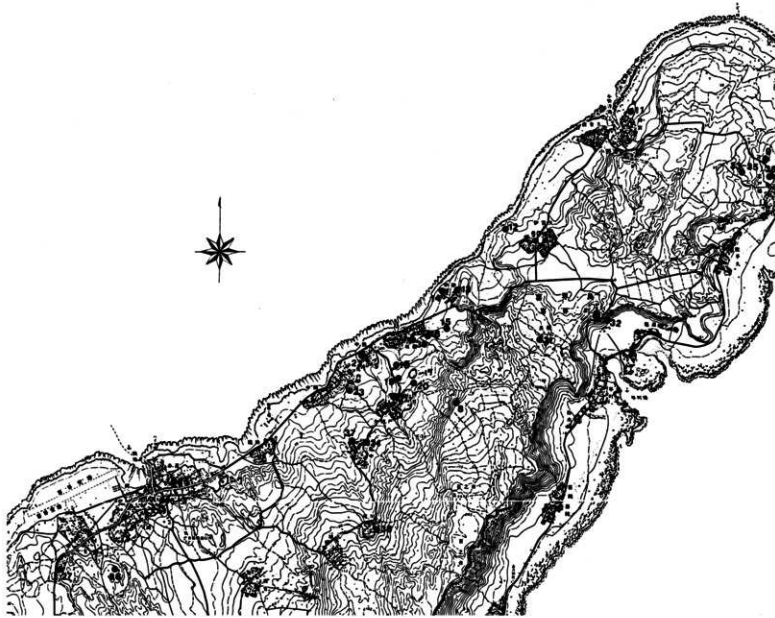
第１表 喜界町遺跡地名表（1）

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
90—1	伊実久貝塚	伊実久伊林1630	台地	縄文～歴史	土器(宇宿上層式)・石器・青磁・獣骨	九学会調査団調査
2	荒木貝塚	荒木喜入山	砂丘上	縄文～	土器(宇宿上層式)・人骨・石器・貝殻	
3	湧天神貝塚	湧中間3の2	砂丘上	縄文～		
4	七城	志戸桶字堆ケダ189	台地	古墳～歴史	土器状遺構・類須恵器壺	
5	先山	先山字浦原	砂丘上	古墳～	土器(東久式)・螺蓋製貝斧・石器	昭和61年度発掘調査
6	荒木小学校	荒木	砂丘上		人骨・石器	九学会調査団調査 埋葬址
7	赤連	湧字赤連	砂丘上	縄文	土器(赤連系)	九学会調査団調査
8	ハンタ	字ハンタ	段丘上	縄文～	土器(喜念1式・宇宿上層式)・住居址	昭和61年度発掘調査・標高146メートル
9	志戸桶貝塚	志戸桶	砂丘上	縄文	土器(面縄前庭定式・嘉徳式)・石器	
10	平家森	早川字上ケ田3番地	台地	古墳～歴史	掘割	

第2表　喜界町遺跡地名表 (2)

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
90−11	八幡神社境内	小野津	砂丘上	歴史〜近世	須恵器双耳骨小壺・白磁壺・石器	地内内の祠に収められている
12	下田の滝周辺	伊実久	砂丘上	古墳〜歴史	類須恵器	
13	大　城　久	伊　砂	段丘上	古墳〜歴史	類須恵器・青磁・フイゴ羽口・鉄滓	ウフダスク
14	伊　砂　一　帯	伊　砂	砂丘上	弥生〜	石器・フイゴ羽口	
15	アギ小森田	坂嶺字アギ小森田	砂丘上	縄文〜	土器(面縄東洞式・轟徳式)・類須恵器	
16	前　　田	坂嶺字前田	丘陵上	縄文〜歴史	土器(宇宿上層式)・類須恵器・青磁・陶器	
17	上　　砂	坂嶺上砂	段丘上	歴史〜	類須恵器	
18	川　　堀	中能字川堀	段丘上	縄文〜歴史	土器(宇宿上層式)・類須恵器・青磁・陶器	
19	柏　　毛	西目字柏毛	段丘上	古墳〜歴史	類須恵器・青磁・白磁・陶器	
20	上　戸　間	西目字上戸間	段丘上	歴史〜	類須恵器	
21	知無田・能田	大朝戸知無田・能間	段丘上	歴史〜	類須恵器・青磁・石器・フイゴの羽口	
22	中　　能	中　能	台　地	歴史〜近世	陶磁器・石器	
23	先　　内	先　内	段丘上	古墳〜	土器・陶磁器・石器	
24	島　　中	島　中	段丘上	古墳〜	類須恵器・青磁・石器・フイゴの羽口	
25	浜　川　都	湾字赤連			石器	
26	総合グラウンド	湾久大真	砂丘上	縄文〜	土器(轟徳式)・土製品・貝殻	中央公民館所蔵
27	中　里　貝　塚	中　里	砂丘上	古墳〜	土器(寄久式)・石器・貝殻	
28	荒　木　農　道	荒　木	砂丘上	縄文〜	人骨・宇宿下層式・貝輪・玉類	九学会調査団調査・埋葬址
29	手久津久貝塚	手久津久	砂丘上	縄文〜	石器・土器	包含層露出
30	上　嘉　鉄	上嘉鉄大供	砂丘上	縄文〜	土器(寄念1式・宇宿上層式)類須恵器他	上嘉鉄小学校所蔵
31	永　　嶺	永　嶺	段丘上	歴　史	類須恵器・滑石製石鍋	
32	早町中学校	早　町	砂丘上		石器(石斧・叩き石)	早町小学校所蔵・標高10m湧水
33	川嶺グスク	川　嶺	丘　陵	歴　史		
34	坂　　元	志戸桶字坂元		歴史〜	類須恵器・青磁・滑石製石鍋・染め付	
35	当　　地	志戸桶字当地	丘　陵	歴史〜	類須恵器・滑石製石鍋・玉類	竹下軍拾氏所蔵
36	振　　川	志戸桶字振川	砂丘上		土器・貝刃・貝殻	
37	島　中　B	島　中	台　地	歴史〜	類須恵器・白磁	昭和63年度発掘調査
38	滝　　川	滝　川	台地上	歴史〜	類須恵器・白磁	
39	坂　嶺　川　窪	坂嶺字川窪	砂丘上	歴史〜	類須恵器	
40	荒　木　海　岸	荒　木	砂丘上	古墳〜	土器(寄久式?)・貝殻	

喜界町遺跡分布地図



第６図　喜界町遺跡分布図

2　名瀬市の遺跡14（1—19）

近世の輸入陶磁器を包蔵した朝仁貝塚と，縄文時代後期と晩期の遺物を出土した朝仁天川遺跡の存在が知られていたが，新たに4カ所の遺物散在地・包含地を確認できた。

知名瀬遺跡（14—16）

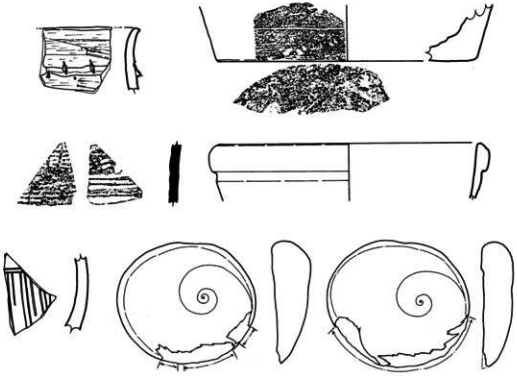
知名瀬川の左岸，上川城と知名瀬城とのほぼ中間部にあり，知名瀬川の河川敷を望む西側に面した丘陵の中位に位置している。遺跡の保存状況は悪く，その大部分は失われている。

採取遺物は小破片のため，明瞭でないが縄文時代に該当しそうである。

小湊遺跡（14—17）（第7図）

太平洋に面した小湊集落と，集落を取り巻く砂丘上の畑地に古代から近世にかけての陶器・磁器類が散布している。特に，集落の南端では，路地等に兼久式土器等を大量に含む遺物包含層が露出している。

最も多い採取遺物は，兼久式土器で，その他類須恵器・玉縁口縁を呈する白磁碗や螺蓋製貝斧で，その他，薩摩焼等の近世陶磁器も含まれる。



第7図　名瀬市内の採取品（小湊遺跡）

小宿地崎海岸遺跡（14—19）

急激に海岸と接触する半島部の中程にあり，大潮時には浸食を受ける位置に，遺物が包含されている。遺物を包含する層が，原位置を保つかどうか詳細な検証は行っていないが，崩壊土に含まれる可能性がある。採取遺物で判断すると，縄文時代に該当する可能性が高い。

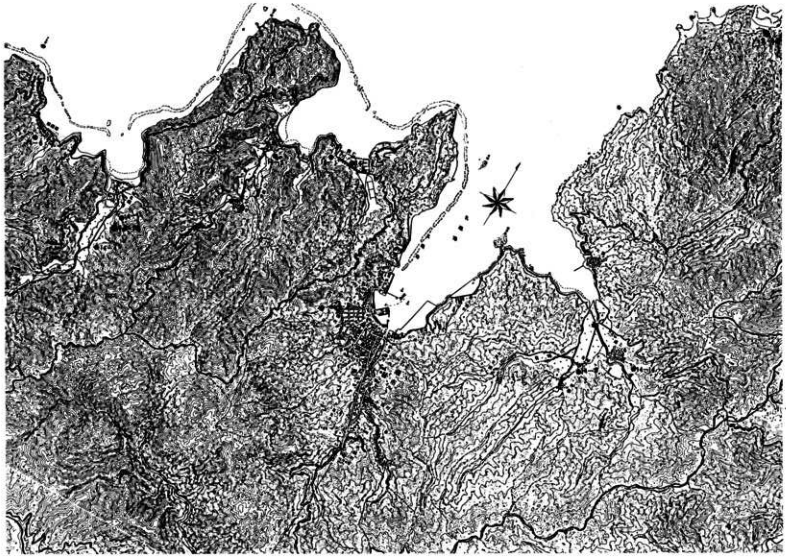
第8図 小宿地崎海岸遺跡

朝仁貝塚

第3表　名瀬市遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
14－1	朝仁天川	朝仁字天川	丘陵端	縄文	土器(轟徳式・宇宿上層式等)石器類	昭和58年市教委調査
2	伊津部勝城	伊津部字城原	丘陵	歴史		タカグスク
3	中勝原城	西仲勝字中勝原	山頂	歴史		中勝原テラ屋敷
4	知名瀬城	知名瀬字城田	山麓	歴史		消滅
5	小宿城	小宿字城	丘陵	歴史		
6	根瀬部城	根瀬部字城田	丘陵	近世		グシク・グシクバテー
7	浦上城	浦上字前勝	丘陵	歴史	鑢	寺社境内地
8	有屋アジ屋敷	有屋竹ンサク	山頂	歴史		
9	小湊アジ屋敷	小湊字中村	平地	歴史		宅地
10	朝戸城	朝戸字大加	丘陵	歴史		朝戸アジ屋敷
11	知名瀬川上城	知名瀬字川上	山麓	歴史		
12	朝仁貝塚	朝仁前開318	集落内	歴史～近世	青磁・近世陶磁器・貝殻	昭和年
13	根瀬部地区自生つつじ	根瀬部	丘陵		自生地	
14	有盛神社及び境内の森林	浦上字前勝869地	山頂			
15	小湊稲荷神社の仏像石灯籠	小湊字金子山3125	山頂			
16	知名瀬	知名瀬	丘陵	縄文～	土器(形式不明)・石器	ほぼ消滅
17	小湊	小湊	砂丘上	古墳～近世	土器(兼久式)・類須恵器・白磁・近世陶器	集落内／砂丘は新期砂丘に相当
18	有良			古墳～	土器(兼久式？)	集落内
19	小宿地崎海岸	地崎	海岸	縄文～	土器(形式不明)	海食進行中

名瀬市遺跡分布地図



第９図　名瀬市遺跡分布地図

3　竜郷町の遺跡88（1－31）

太平洋岸に形成された小規模な砂丘上に位置する手広遺跡は，南島の先史時代を解明する上で欠くことのできない貴重な情報を提供した。発掘調査では，上位の1文化層より6枚の文化層の存在が確認され，面縄西洞式土器から兼久式土器・類須恵器への細な変遷が読み取れる。また，赤尾木湾に位置するウフタ遺跡では，面縄前庭式土器が完形に復元されている。

今回の調査で新たに確認できた遺跡は4遺跡で，逆に，アオン浜遺跡や瀬連2遺跡のようにそのほとんどが消滅した遺跡もある。

笠利半島と大島半島との接触地は細くくびれ，また，地勢は低く広範囲に砂丘が形成されている。先に記した，ウフタ遺跡もこの砂丘地の一角に位置している。今回の調査では，野原A・野原B・手広遺跡の3遺跡を確認したが，これらのほかにも砂丘内には多くの遺跡地が埋もれていると思われる。

野原A遺跡（88—28）

通称ナーハマ海岸に沿い南西に伸びる砂丘地内にあり，野原B遺跡も同一の砂丘に位置している。砂採取により砂丘の断面が現れ，貝殻等が大量に露出し，さらに人骨の一部と見られるものも採取している。人工遺物は確認していないが，貝殻等のあり方から生活の舞台であった可能性は高いと判断できる。

野原B遺跡（88—29）

野原A遺跡よりやや南に位置し，砂採取により砂丘堆積面が露出している。野原A遺跡と共に，新期砂丘と判断できるが，砂採取については細心の注意を払う必要がある。

手広A遺跡（88—31）

手広川を挟んで手広遺跡と対峙する位置にある。太平洋に面した砂丘は蒲鉾状を呈し，かなりの堆積をなすと判断できる。

希望ノ星学園遺跡（88—32）

ウギヤウ遺跡は社会福祉法人希望の星学園の東にあり，今回，西側に新たな遺物散布地を確認した。ウギヤウ遺跡は新期砂丘地にあり，今回の散布地は，風化の著しく進んだ砂丘内に存在している。

兼久式土器や，それよりさかのぼる可能性のある遺物も見られる。

コシマ遺跡（88—30）

加世間集落の南にある周囲250m程の小島が対象地で，島の頂部に小礫を配した2m程の方形の遺構が残されている。確認できる人工遺物は少なく，無文土器片と白磁片が採取されるだけで，その詳細については明らかにできない。

瀬連Ⅱ遺跡（88—13）

笠利湾に面した砂丘地が本遺跡の包含地であったが，砂採取によりそのほとんどが失われてしまった。砂丘内からは大量の貝殻が出土し，少量の土器片も確認されている。土器片で判断すると，兼久式土器・面縄西洞式土器が認められる。

第10図 瀬連2遺跡　　野原B遺跡

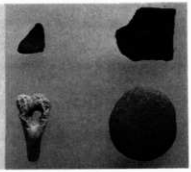
第4表　竜郷町遺跡地名表(1)

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
88－1	ウフタ	赤尾木字ウフタ	砂丘上	縄文	土器(条痕文・面縄前庭式・嘉徳式)石鏃	昭和56年町教委・熊大調査
2	手広	赤尾木1730他	砂丘上	縄文～古墳	土器(宇宿下・上層式・轟久式)石鍬遺構	昭和59・60年竜美考古学会調査/消滅
3	赤尾木	赤尾木	砂丘上	古墳～	土器(轟久式)・貝小玉	
4	赤尾木保育所	赤尾木	砂丘上	古墳～	土器(轟久式)・類須恵器・青磁	集落内/砂丘は新期砂丘に相当
5	戸口城	戸口字池野	丘陵	歴史	青磁	
6	南州流跡	竜郷	海岸	近世	西郷松	
7	松当城	戸口字大三田	丘陵	歴史		
8	屋勝城	戸口字真ら勝	山麓	歴史		
9	古見城	戸口字用川渡	山頂	歴史		
10	手川	赤尾木1281番地	砂丘上	弥生	土器(形式不明)・磨製石斧・貝殻	包含層露出
11	ウギヤウ	赤尾木1339・1340	砂丘上	縄文～	土器(嘉徳式・面縄西洞式)・磨製石斧	砂採取進行中
12	瀬連1	芦徳954番地他	砂丘上	古墳～	土器(轟久式)・貝殻・貝製品	集落内/砂丘は新期砂丘に相当
13	瀬連2	芦徳979番地他	砂丘上	縄文～古墳	土器(面縄西洞式・轟久式)	大部分が消滅
14	竜郷金久	竜郷	砂丘上	古墳～	土器(轟久式)・類須恵器	集落内/砂丘は新期砂丘に相当
15	前間	竜郷124番地他	砂丘上	古墳～	土器(轟久式?)・貝殻	集落内/砂丘は新期砂丘に相当
16	白間	竜郷172番地他	砂丘上	古墳～	土器(轟久式?)・青磁	集落内
17	中里	竜郷1548・1549	砂丘上	古墳～	土器(轟久式?)	集落内
18	外金久	安木屋場2459番地他	砂丘上	古墳～	土器(轟久式?)	集落内
19	三岸	安木屋場2808番地他	砂丘上	縄文～	土器(面縄西洞式)	
20	円金久	円425番地他	台地	古墳～	類須恵器・石斧	
21	中金久	嘉渡446番地他	台地		土器(形式不明)	類須恵器は完形品/集落内のため保存対策必要
22	小前勝	小前勝1210番地他	平地		磨製石斧(時期不明)	嘉渡川の河川敷
23	里	嘉渡字里410番地他	台地上	歴史～近世	青磁	集落内
24	アオン浜	戸口字アオン	砂丘上	弥生～古墳	土器(弥生式・轟久式)・布目圧痕土器	砂採取により消滅
25	平木山	戸口字上天川	台地	古墳～	類須恵器・青磁・白磁	

第５表　竜郷町遺跡地名表(2)

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
88—26	フージャバル	浦字	台地	縄文～	土器(宇宿下層式)	
27	嘉渡２	嘉渡	砂丘上	歴史～	青磁・白磁	
28	野原Ａ	赤尾木字野原1583他	砂丘上	古墳～	土器(形式不明)・貝殻	砂採取進行中
29	野原Ｂ	赤尾木字野原1584他	砂丘上	古墳～	土器(形式不明)・貝殻・人骨	砂採取進行中
30	コシマ	加世間	島	歴史～近世	土器(形式不明)・白磁	
31	手広Ａ	手広1699—1	砂丘上	古墳～	土器(形式不明)・貝殻	
32	希望ノ星学園	ウギヤウ	砂丘上	古墳～	土器(東久式)・貝殻	

第11図　野原Ａ遺跡



アオン遺跡

4　笠利町の遺跡89（1—84）

奄美大島の最北部に位置する笠利町は，最も多くの遺跡が分布することが知られている。そのため，先史時代の解明も盛んで，宇宿貝塚（89—28）・ヤーヤ洞穴遺跡（89—26）・サウチ遺跡（89—29）等の発掘調査が行われてきた。さらに，近年になり，各種の開発行為に伴う発掘調査が集中的に行われるようになり，より鮮明に先史時代の様相が明らかになりつつある。特に，土盛集落の北に位置する喜子川遺跡（89—１）では，旧石器時代の存在の可能性を求めて継続した調査が続けられている。

町内の多くの遺跡は，海岸線に接した砂丘地に集中するという特徴があり，中でも，太平洋に面した東海岸に多く分布している。特に，新期砂丘と旧期砂丘が重なって発達している和野集落からあやまる岬にかけては，各時代の遺跡が密に分布している。

笠利町では，平成元年度時点で57箇所の遺跡が確認されていたが，その後も独自に遺跡把握の調査を進めてきた。その結果，今回の調査での確認を含め84箇所の遺跡の所在が確認されている。しかし，近年の諸開発や砂丘地での砂採取等により，破壊され消滅した遺跡も見受けられる。

そこで，今後注目しておくべき遺跡について記載しておく。

用植物園遺跡（89—９）

用長浜遺跡（89—８貝塚との指摘もある）と連続する可能性の高い遺跡で，亜熱帯特有の樹

竜郷町遺跡分布地図

第12図　竜郷町遺跡分布地図

木を砂丘を利用して大規模に植栽している。この砂丘地が大量の遺物を包含しており，植物園内に広く遺物の散布が見られ，特に，樹木の伐根や植え替えの行われたところでは，多くの遺物が散乱している。遺物は兼久式土器で，大型の土器片が採取されており，遺構等を良好な状態で残している可能性が高い。

マツノト遺跡（89—12）

海岸線に接した砂丘内の遺跡で，喜子川遺跡とは県道を挟んで対面する。この県道が，新期砂丘と旧期砂丘の接触面に相当し，喜子川遺跡は旧期砂丘に，マツノト遺跡は新期砂丘に立地している。このマツノト遺跡では，一部で砂採取が行われ遺跡や遺物包含層の部分的破壊が見られる。この間，貝札や骨製のかんざしが採取されており，今後の保存対策が望まれる。

サウチ遺跡（89—29）

笠利湾に面した西海岸に面した砂丘遺跡で，昭和52年に砂丘の一部が調査され多くの出土品があり，弥生時代に該当する土器の存在が知られるようになった。蒲鉾状を呈している砂丘に，多くの遺物を包含していることが確認されているが，砂丘の後背地にも遺跡が残存する可能性がある。

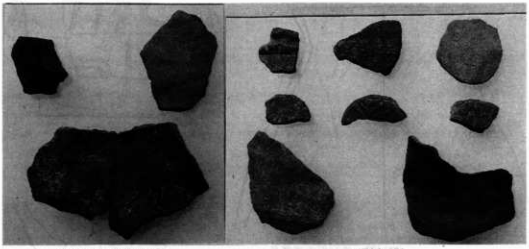
この一帯は，海浜キャンプ地としての活用の可能性もあり，今後の保存対策が急がれる。

土盛第２遺跡（89—83）

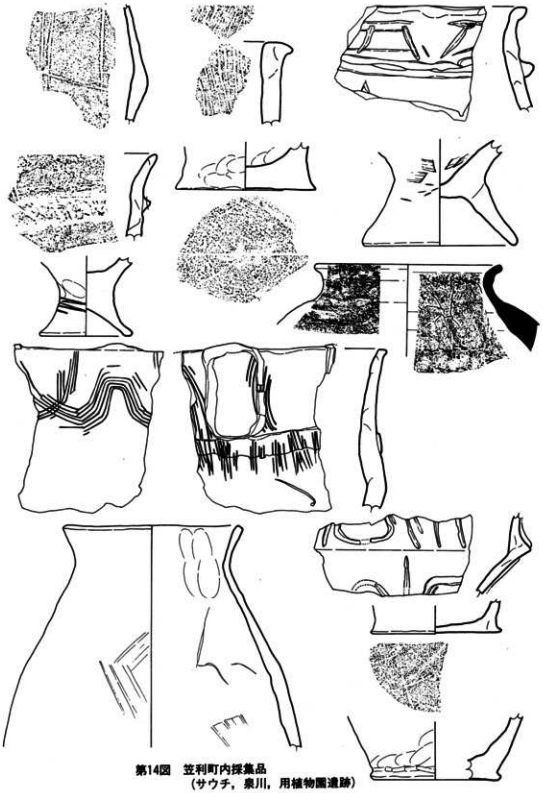
今回の調査で新たに確認した遺跡で，近接した土盛遺跡（89—13）・大瀬第１遺跡（89—74）・大瀬第２遺跡（89—75）があるが，これらが連続することも考えられる。

次に，万屋遺跡（89—14）・崎原遺跡（89—11）・土浜遺跡（89—20）・屋仁遺跡（89—66）等は，各集落内に遺跡が広がっているため，宅地の立て替えや小規模の造成等でも遺物包含層に及ぼす影響は大きいものと考える。

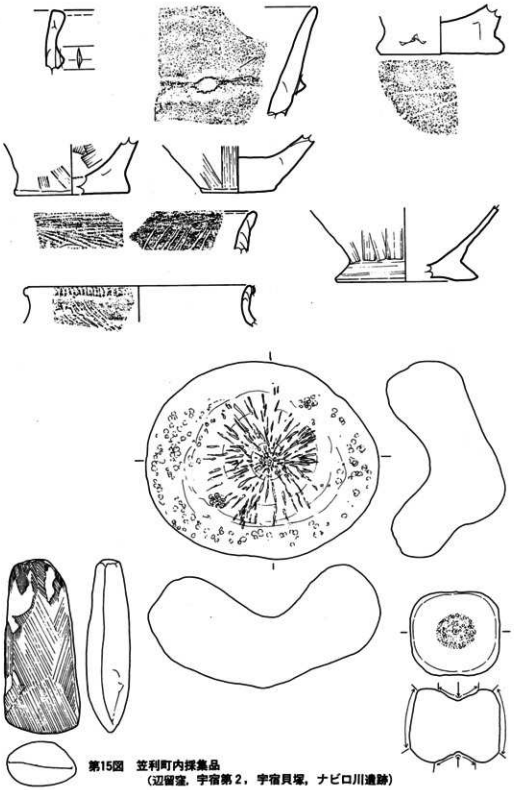
一方，各種の開発行為等で既に消滅した遺跡にケジ遺跡（89—３）・泉川遺跡（89—15）・長浜兼久Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ遺跡（89—16）・鯨浜遺跡（89—23）等があげられる。



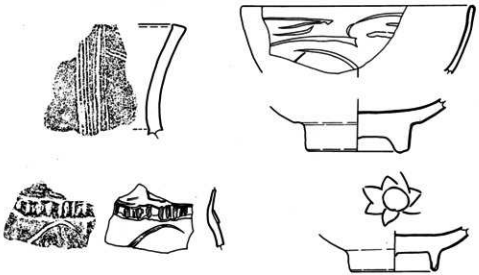
第13図　用植物園遺跡　　用長浜遺跡



第14図　笠利町内採集品
（サウチ，泉川，用植物園遺跡）



第15図　笠利町内採集品
（辺留窯，宇宿第２，宇宿貝塚，ナビロ川遺跡）



第16図　笠利町内の採集品（明神崎遺跡）

第6表　笠利町遺跡地名表(1)

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
89－1	喜子川	土盛字喜子川	砂丘上	縄文	土器(爪形文・面縄前庭式)石器・集石遺構	調査団による調査／旧石器時代の可能性もある。
2	下山田	万屋字下山田	砂丘上	縄文	土器(字宿下層式)・集石遺構・石器・貝殻	昭和59年県教委調査・平成2年町教委調査
3	ケジ	万屋字ケジ	砂丘上	縄文	土器(条痕文・面縄前庭式)・集石遺構	昭和58年町・絵大・九大／昭和61年県調査
4	土浜	土浜	台地	古墳～	土器(兼久式)	集落内
5	宇宿小学校	宇宿	砂丘上	縄文	土器(宇宿上層式・宇宿下層式)・石器	
6	明神崎	用安字入り瀬	砂丘上	弥生～古墳	土器(兼久式・弥生式)・石器・貝殻	
7	宇宿港	宇宿字港	砂丘上	弥生～	土器(弥生式)・人骨(埋葬)・貝殻	昭和55年町教委・絵大・九大調査団調査
8	用長浜	用字長浜	砂丘上	古墳～	土器(兼久式)・石器・貝殻・風葬墓	植物園の前面に広がる砂丘
9	用植物園	用	砂丘上	古墳～	土器(兼久式)・石器・貝殻	植物園内
10	辺留窪	辺留窪	砂丘上	弥生～近世	土器(弥生式～藩政時代)・溝状遺構	昭和58年町教委・絵大・九大調査団調査
11	崎原	須野字崎原	砂丘上	古墳～	土器(兼久式)・貝殻・石器	
12	マツノト	字松ノト	砂丘上	古墳～	土器(兼久式)・貝殻・貝札	砂採取進行中
13	土盛	土盛	砂丘上	古墳～歴史	土器(兼久式)	大部分が消滅
14	万屋	万屋	砂丘上	古墳～	土器(兼久式)	集落内にあるため保存対策の必要がある。
15	泉川	万屋字長浜	砂丘上	古墳～	土器(兼久式)・貝殻	昭和61年県教委調査消滅
16	長浜金久Ⅰ～Ⅴ	万屋字長浜	砂丘上	弥生～古墳	土器(弥生式・兼久式)・石器・貝殻	昭和58～62年県教委調査消滅
16	長浜金久Ⅱ	万屋字長浜	砂丘上	縄文	土器(轟徳式)・石器・貝輪・住居跡	昭和58～59年県教委調査一部展示保存
17	節田ヨフ井	節田字ヨフ井	台地上	古墳～歴史	類須恵器・青磁・陶器	城の可能性がある。
18	節田大漆	節田字大漆	台地上	古墳～歴史	類須恵器・青磁・白磁	城の可能性がある。

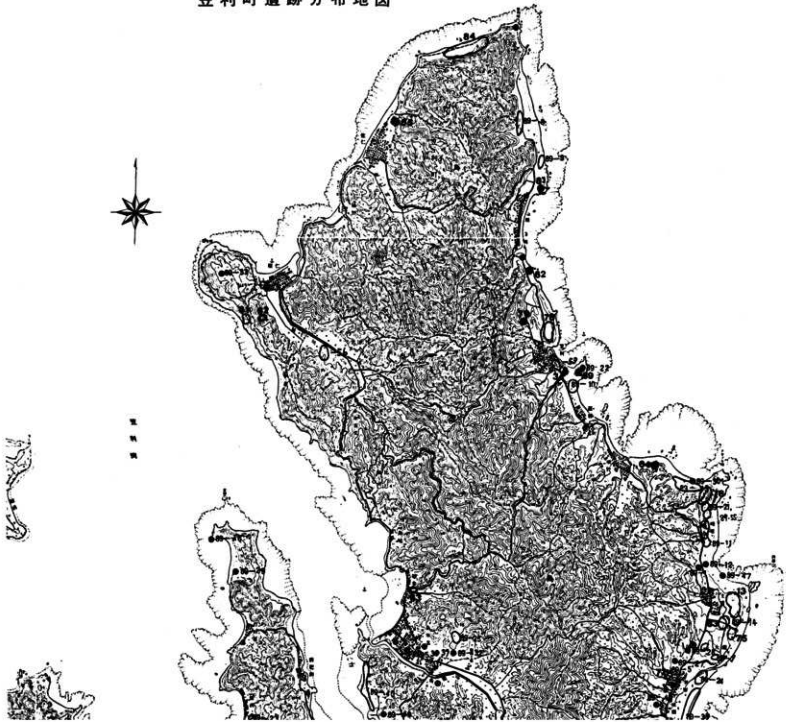
第7表　笠利町遺跡地名表(2)

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
89−19	節田立神	節田	砂丘上	古墳〜	土器(著久式)	海浜部分は消滅
20	土浜砂丘	土浜	砂丘上	古墳〜	土器(著久式)・類須恵器	砂採取により大部分は消滅
21	第1 あやまる貝塚	須野字崎原	マージ	古墳〜歴史	類須恵器	一部分残存
22	辺留城	笠利字辺留城	台地上	古墳〜歴史	類須恵器・青磁・陶磁器・石器	城
23	鯨浜	鯨浜	砂丘上	古墳〜歴史	類須恵器・青磁	消滅
24	前金久	宇宿字前金久	砂丘上		人骨	
25	赤木名城	里川道ほか	山・項	歴史		城
26	ヤーヤ洞穴	土浜	洞穴	縄文〜弥生	土器(爪形文・弥生式)・石器・人骨	昭和37年九学会調査団調査・昭和46年町指定
27	宇宿高又	宇宿字高又	砂丘上	縄文	土器(爪形文・条痕文・宇宿下層式)	昭和51年町指定・昭和53年焼大調査
28	宇宿貝塚	宇宿字大麓	砂丘上	縄文〜歴史	土器(宇宿下層式・宇宿上層式)・埋葬址	S61年国指定・S29・30・45・53調査
29	サウチ	喜瀬字サウチ	砂丘上	縄文〜弥生	土器(面縄西洞式・弥生式)・貝符	昭和51年出土品町指定／一部消滅
30	第2 あやまる塚	須野字大道	砂丘上	縄文〜	土器(宇宿下層式・弥生式・著久式)	昭和46年町指定・昭和60年町調査
31	ナピロ川	和野字ナピロ川	砂丘上	縄文〜	石器(石斧・叩き石)	昭和46年出土品町指定／消滅
32	赤木名観音寺跡	大字里川道	台地上			昭和46年町指定
33	蘭生神社	屋仁字アヤンギ1550	丘陵		伝承地・景勝地	
34	大島奉行所跡	大笠利字高城	集落内	近世	屋敷跡・サンゴ石垣	昭和46年町指定
35	大島代官屋敷跡	大笠利字上里11番地	集落内	近世	屋敷跡・サンゴ石垣	昭和49年町指定
36	大島代官屋敷跡	大笠利字上里12番地	集落内	近世	屋敷跡・サンゴ石垣	昭和49年町指定
37	大島代官屋敷跡	大笠利字上里910番地	集落内	近世	屋敷跡・サンゴ石垣	昭和46年町指定
38	アマンデー	字竹弥703番地	山項		伝承地	昭和46年町指定
39	戦浜	前金久265番地	砂丘上	近世	人骨(埋葬)	昭和46年町指定
40	津代古戦場	手花部津代海岸	砂丘上		積み石(サンゴ)墓	昭和46年町指定／一部分残存
41	ハデー	万屋川原勝	山項		伝承地	昭和46年町指定
42	明神崎	用安大牧	砂丘上		景勝地	昭和46年町指定
43	鍛鉄アヂン都部	須野字大道	砂丘上		自生地	昭和46年町指定
44	メビルギ都部	手花部字平井	低湿地		自生地	昭和46年町指定
45	節田立神	節田字立神地先	海岸		景勝地	昭和46年町指定
46	西郷岩	喜瀬サウチ地先	海岸		景勝地	昭和46年町指定
47	子だき石	宇宿字松ノト先	海岸		景勝地	昭和46年町指定
48	城間トフル群	万屋深き779他	集落外	近世	集団墓	昭和46年町指定
49	アナバリトフル	手花部字六張346番地他	洞穴	近世	集団墓	昭和46年町指定
50	薩家の庭園	用安字当原1582番地	宅地	近代	名勝地	昭和46年町指定
51	手花部墓石	手花部	砂丘上	近世	墓地	昭和46年町指定

第8表　笠利町遺跡地名表(3)

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
89-52	土浜ヤーヤ	土浜字イヤンヤ	マージ		土器(著久式・不明)磨製石器・剥片石器	海浜部分は消滅
53	富城	大笠利字富城		歴史	近世陶磁器	砂採取により大部分は消滅
54	大和城	手花部字大和城原	丘陵	歴史		城に比定／一部分残存
55	崎城	須野字崎城	丘陵	歴史		城に比定
56	按司城	屋仁字崎山地	山頂	歴史		城に比定
57	渡城	用安字渡城	丘陵	歴史		城に比定／別名殿地
58	万屋集落	大字万屋	砂丘上	古墳～	土器(著久式)・貝殻	
59	土浜	土浜	砂丘上	古墳～	土器(著久式)・石器・貝殻	
60	アニ城	屋仁蘭生		歴史		城に比定
61	ヤンアジガナシ墓地	屋仁蘭生		近世	人骨	
62	用安良川	用安良川	砂丘上	古墳～	土器(著久式)・石器	
63	船倉	船倉	河川敷	近世		
64	コビロ	和野字コビロ	砂丘上	古墳～	土器(著久式)／土壙墓	昭和58年町教委・鈴木・丸大調査
65	佐仁	佐仁	砂丘上	古墳～	土器(著久式)・貝殻	
66	屋仁	屋仁	集落内	古墳～歴史	土器(著久式)・類須恵器	集落は砂丘上に形成し，砂丘は新期砂丘に相当
67	喜瀬石棺墓	喜瀬	台地	近世	箱形石棺(サンゴ)	
68	一屯	一屯	砂丘上	近世	箱形石棺(サンゴ)	
69	辺留城箱形石棺墓	笠利字笠利	台地上	近世	箱形石棺(サンゴ)	城(辺留城比定)の中
70	手花部城	手花部	山頂	歴史		城に比定
71	城	万屋字城	微高地	縄文～歴史	土器(面縄西洞式・著久式)・類須恵器	青磁／埋葬址　昭和　年町教委調査
72	字宿小第2	字宿	微高地	縄文～	土器(字宿上層式)	
73	アヤマル城	須野字あやまる	岬先端	歴史		町営国民宿舎あやまる荘
74	大瀬第1	字宿	砂丘上	古墳～	土器(著久式)	
75	大瀬第2	字宿	砂丘上	古墳～	土器(著久式)	
76	下山田トフル	万屋字下山田	丘陵	近世	集団墓	
77	ゲントフル			近世	集団墓	
78	笠利城	笠利	台地上	歴史	青磁・白磁・類須恵器／土塁状遺構	
79	笠利トフル	笠利		近世	集団墓	
80	用墓地内箱形石棺墓	用		近世		
81	用風葬墓跡	用		近世	集団墓	
82	字宿箱形石棺墓	字宿	台地上	近世	集団墓地	
83	土盛第2	土盛	砂丘上	縄文～		砂丘は旧期砂丘に相当
84	ヤドリ浜	佐仁	砂丘上	古墳～	凹石	砂丘は新期砂丘に相当

笠利町遺跡分布地図



第17図　笠利町遺跡分布地図

第Ⅲ章　平成２年度の調査

第１節　調査の経過

日誌抄

5月7日(月)

- 知名町正名の分布調査……約40haを調査する。
- この地域は，第二知名西部土地改良地区にあたり，遺跡としては千間遺跡を確認する。

5月8日(火)

- 第四知名東部の分布調査……約30haを調査する。
- 第二知名東部の分布調査……約20haを調査する。
- 住吉貝塚の範囲を確認した以外は遺跡は確認できなかった。

5月9日(水)

- 第三知名東部の分布調査……約25haを調査する。
- 過疎基幹農道整備屋子母線……2,780m 調査する。
- トフル墓の調査
- 浜須Ａ・Ｂの調査……範囲の確認。

5月10日(木)

- 知名町分布調査における遺跡の小字確認。
- 浜須Ａ・Ｂは小字を確認の結果，小字は泊りであることが判明した。

5月11日(金)

- 本日より和泊町にはいる。
- 和地区の分布調査……約10haを調査する。
- 筒岩地区の分布調査……約34haを調査する。
- 第三仁嶺地区の分布調査……約15haを調査する。

5月12日(土)

- 和地区の分布調査……約20haを調査する。
- 長畠地区の分布調査……約22haを調査する。

5月13日(日)

- 本日は和泊町の分布調査の整理をする。

5月14日(月)

- 第一仁嶺地区の分布調査……約17haを調査する。
- 第二仁嶺地区の分布調査……約25haを調査する。
- 畦布ワンジョナーバンタ地区の分布調査……畦布遺跡の範囲を確認する。
- 小手野地区の分布調査……小手野遺跡の範囲を確認する。

5月15日(火)

• 小手野遺跡の試掘を実施する。

第1トレンチ2m×3mを設定する。耕作土の表層から第2層にはいる。土器はローリングを受けている。

5月16日(水)

第2層～第4層まで掘り下げる。4層の出土遺物は原位置を保つものと判断する。出土状況の図面作成。地形図の作成。本日で試掘終了。

5月17日(木)

発掘調査の整理。移動。

5月18日(金)

港より遺物搬入

5月23日(水)～28日(金)

小手野遺跡他の土器洗い・注記・接合を実施する。

5月29日(火)

本日から与論町の分布調査を実施する。

町の社会教育課と打ち合わせ。

5月30日(水)

• 大字立長地区の分布調査。

• 立花地区の分布調査……約30haを実施する。

• 周知の遺跡「ハギビナ」が確認できず。

5月31日(木)

• 大字赤崎地区の分布調査。

• 真正地区の調査……約18haを実施する。

• 大字那間地区の分布調査……約15haを実施する。

本日の調査では遺跡は発見できなかった。

5月31日(木)

• 大字立長地区の分布調査……茶泊遺跡を確認する。

• 大字麦屋地区の分布調査……正遺跡を確認する。

• 大字茶花地区の分布調査……北登五良遺跡を確認する。

5月31日(木)

• 大字茶花地区の分布調査。

本日の調査では茶花遺跡の所在が確認できなかった。

第2節　沖永良部島・与論島の位置及び環境

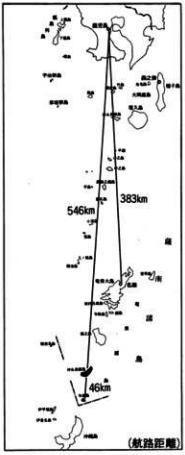
南西諸島は，北は種子島から南は台湾までおよそ1300kmにわたって100あまりの島々が点々と連なっている。その中央部に奄美諸島がある．北東から南西へ喜界島，奄美大島，加計呂麻島，請島，与路島，徳之島，沖永良部島，与論島へと連なり，沖永良部島・与論島は奄美諸島の南方に位置する。以下個々の島について述べる。

1　沖永良部島

沖永良部島は鹿児島の南西530 kmにあり，周囲49.3km，面積94.5㎢の島である。南東は太平洋，北西は東シナ海に面している。本島は2町からなり，北東部に和泊町，南西部に知名町がある。

島の基盤は，古生代の名瀬粘板岩層，新村粘板岩層及び中生代の古期花崗岩類等からなり，全島の3分の2ほどが琉球層群の隆起珊瑚礁（琉球石灰岩）でおおわれ，平坦な段丘状の地形をしている。本島の最高峰は大山で245 mある。その大山を中心に，それを囲むようにカルスト地形が発達している。そのため，山の急斜面下やドリーネの底部など各所に湧水が発達していて，水源として利用されている。河川は表流河川として余多川，石橋川，奥川がおる。

気候は，亜熱帯海洋性で四季を通じて温暖で霜雪を見ることがなく，年平均気温22℃であり，台風も7月から9月にかけて襲来する。



第18図　奄美諸島

2　与論島

与論島は沖永良部島の南方46kmに位置し，本島の南方28kmには沖縄本島がある。周囲22km，面積20.8㎢で，太平洋と東シナ海に囲まれている。全島を町域とする。

本島は全島隆起珊瑚礁（琉球石灰岩）でおおわれ，島の最高地点で97.2m を測る．全体的に平坦な島である。内陸部にはカルスト地形が発達し，北部や西部にはドリーネが見られる。このような地質のため河川は見られず，雨水は地下にもぐり地下水となっている。また，島には2つの断層線がみられ，北部から南部へ走る中央断層線と島の最高地点の北側から東部へ走る東部断層線がある。

気候は亜熱帯海洋性で四季を通じて温暖である。

なお，歴史的環境については各々のページで触れる。

第3節　各町の遺跡

1　和泊町の遺跡

和泊町は沖永良部島（94.54㎢）の北東部で，鹿児島市からの距離は546㎞の所に所在し面積は41.17㎢である。主要河川は奥川，石橋川があり，主要山岳は越山188.6㎞がある。

町の人口は8,653人（昭和63年現在）で，総戸数は2,780戸あり，主産業は耕地面積の水田が9 ha，畑地が2,180haが示すように，畑作が主である。

主な農産物には，さとうきび・かんしょ・らっかせい・たばこ・サトイモ・パレイショ・実エンドウ・インゲン・ユリの球根・フリージャの球根・グラジオラスの花・キクの花・スターチスの花・ユリの花や畜産である肉用牛の生産がある。

地形としては，隆起サンゴの島であるので，平坦である。

第19図　小手野遺跡近景

(1) 小手野遺跡（94—12）

この遺跡では，試掘を行った。

所在地は永嶺字小手野で島の北海岸の中央部に位置する。遺跡の標高は約100 mで東側には浸食によってできた深い谷がある。（第21図）

調査した畑地は，甑箪状に開墾して，入り口は北につくっている。

第20図　小手野遺跡の遺物出土状況

確認のトレンチは2箇所

いれた。（第22図）

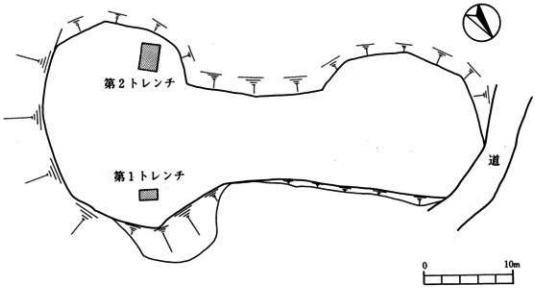
第１トレンチは畑の開墾で切り取った高い所に，第２トレンチは土を寄せた低い方に設定した。

ここでは，第２トレンチが表層が深く，二次堆積層の確認だけであったため第１トレンチだけを掲載する。

第１トレンチは２ｍ×３ｍの規模である。

地層は第１層が表層で灰褐色土層，第２層が黒褐色土層で攪乱層，第３層が黄褐色土層，第４層が黒褐色粘質土層，第５層が茶褐色土層である。深さは80cmまで確認する。

第21図　小手野遺跡の地形図



第22図　小手野遺跡のトレンチ配置図

第２・３層は二次堆積層で，遺物は礫等と一緒に検出され，土器片は小さくローリングを受けている。第４層は二次堆積層でないため，ローリングを受けていない土器片が出土した。

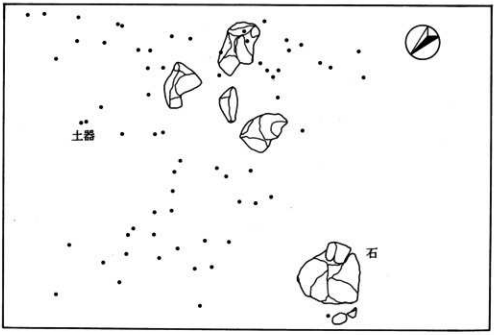
遺構は確認できなかった。

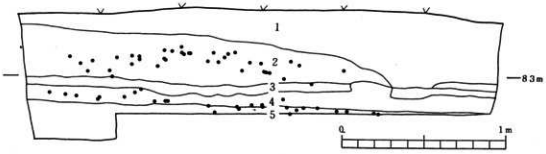
出土遺物

出土遺物は１～10までが第１層であり，11～37までが第２層であり，38～46までが第４層である。

これらの土器の胎土や色調はだいたい類似しており，茶褐色で白いサンゴ粒が混在しているほか，石灰岩の粒や雲母等がみられる。

器形としては，口縁部が外反し，底部は丸底と平底がある。装飾としては，外耳状や半球状の突起をもつものがある。そのほか，連点文や沈線文がみられる。





第23図　小手野遺跡遺物出土状況

1層の遺物（1～10）

1～3は口縁部である。やや外反し，突帯が1・2に付けられている。4～8は胴部である。4は半球形の突起を付けている。5は連点が2状みられる。6は外耳系土器である。7は底部近くの部分である。8は突帯に連点が付き，沈線を施している。面縄東洞式系と思われる。9・10は底部で，丸底である。

2層の遺物（11～37）

11～21までが口縁部である。口唇・口縁部はやや外反する器形であり，13・14が平坦口縁をしている他は，やや丸みを持った口唇部である。11・12・20は突帯をもっている。

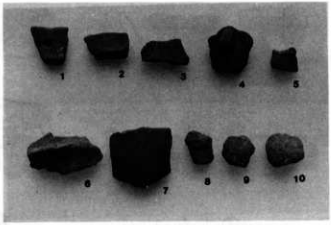
22～36は頸部から胴部までのもので，その内，22～26までは外耳状の部分であり，25は刻みが施されている。27には低い突帯がある。28は細い沈線を桝状に施し，外側に細い刻み目がある。29は鋸歯状に沈線を施している。31～35は胴部である。

36は平底の底部であり，37は丸底である。

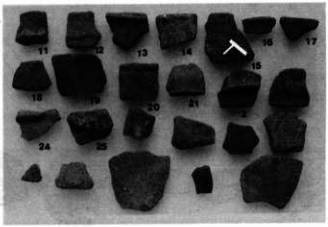
4層の遺物（38～46）

39～43が口縁部で，44・45が胴部，46が底部である。

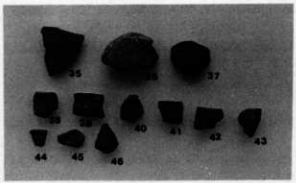
第24図　小手野遺跡土層と遺物出土状況



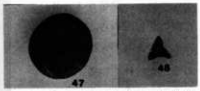
第25図　同出土遺物1（写真）



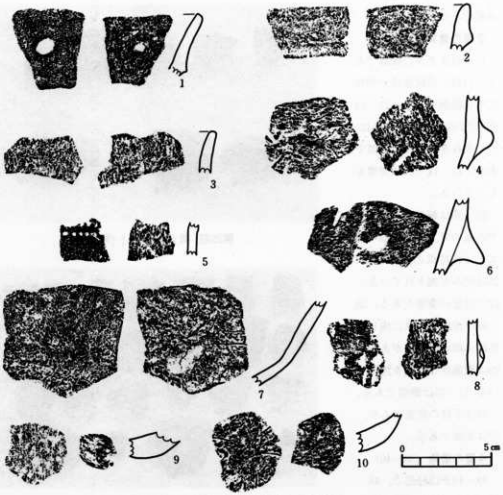
第26図　同出土遺物2（写真）



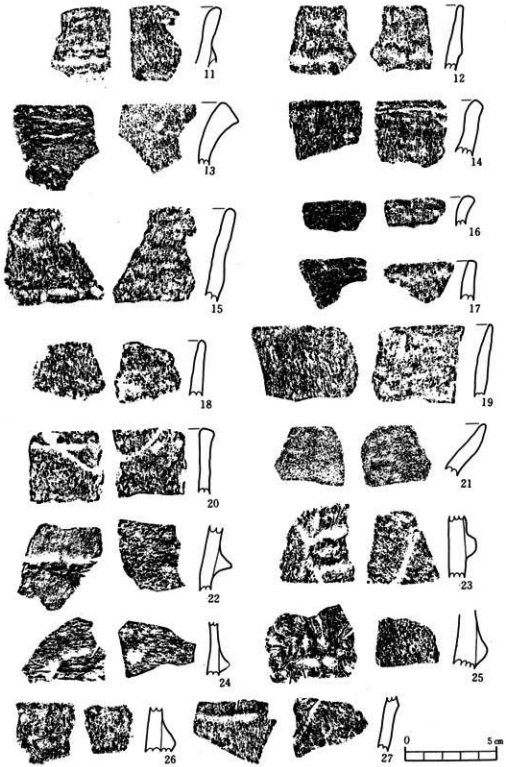
第27図　同出土遺物３（写真）



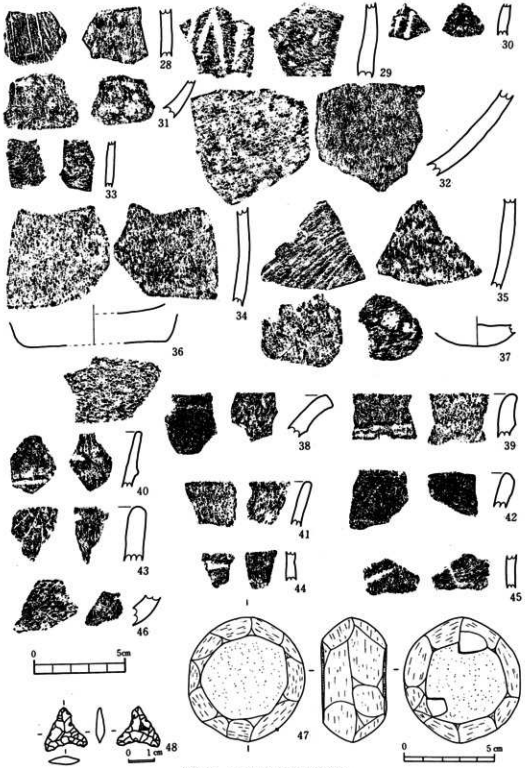
第28図　同出土遺物４（写真）



第29図　小手野遺跡出土遺物１



第30図　小手野遺跡出土遺物2



第31図　小手野遺跡出土遺物3

その内39・40は突帯があり，44は沈線がある。

石　器

石器は表面採集で磨製石斧・打製石鏃・すり石・剥片等が採集された。

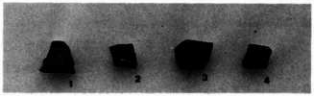
磨製石斧は安山岩・頁岩でつくられている。打製石鏃・フレークは玉ずいで作られている。すり石は頁岩でつくられている。

(2) 畦布ナーバンタ遺跡（94－3）

本遺跡は島の北側海岸に位置し，標高約50mの台地に立地している。

周知の遺跡であるが，地下げをしているので大半が破壊されている。残りは周辺部と思われる。

遺物は1～4で嘉徳式系が採集されている。



第32図　畦布ナンバータ遺跡の採集遺物

第33図　畦布ナンバータ遺跡の採集遺物

第9表　和泊町遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
94－1	畦布ナーバンタ	ワンジョナーバンタ	台地	弥生	弥生式土器片	奄美自然と文化(九学会編)
2	小　積　原	和泊小積原	平地	縄文	宇宿上層式土器・石斧・鏃石	*
3	畦布ナーバンタ	ワンジョナーバンタ	台地	縄文	宇宿上層式土器	*
4	内　城	内　城				
5	世之主の墓	内　城	台地			(県)昭40.12.10
6	後蘭孫八の城跡	後蘭前田川	丘陵			(町)昭42.4.10
7	世之主の城跡	内　城	丘陵			*
8	後蘭孫八の墓	後　蘭	台地			*
9	がじゅまる	国頭　国頭小学校	平地			*
10	九本柱高倉	根折起山公園内	丘陵			*
11	和	和	丘陵	中世	類須恵器・青磁	
12	小　手　野	永嶺字小手野	台地	縄文	石斧	

2　知名町の遺跡

知名町内の遺跡調査は1957年（昭和32），九学会連合奄美大島共同調査の考古班による住吉貝塚の発掘調査が行われた。その報告によると，石組住居跡の検出や土器，石器，貝輪等が出土している。時期は，宇宿上層式の時期である。1981年（昭57），1982年（昭58）には鹿児島大学・沖縄国際大学によりスセン當貝塚，神野貝塚の発掘調査がなされている。

また，1982年から３次にわたり，中甫洞穴の発掘調査が実施された。調査の結果，爪形文土器，轟Ⅰ式土器，人骨等が出土した。爪形文土器は本島最古の土器と報告されている。

さらに，1985年には赤嶺原遺跡，1987年には前当遺跡の確認調査がなされた。

さて，知名町内の遺跡は鹿児島県遺跡地名表によれば44ケ所知られている。

今回の調査では新たに１ケ所の遺跡を確認した。太平洋に面した内陸部の千間遺跡である。そのほか，スセン當貝塚と浜須遺跡を調査した。以下概要を述べる。

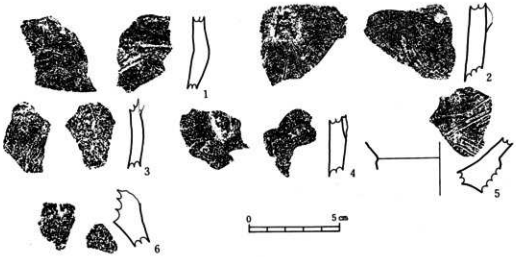
(1)　スセン當貝塚（95－４）

知名町の南西部，屋子母字スセン當に所在する。遺跡は屋子母海岸から住吉海岸へサイクリング道路が走っており，その道路わきの防風保安林の中にある砂丘遺跡である。

この遺跡は鹿児島大学によって発掘調査が行われ，５世紀代の新形式の土器（スセン當式）が発見されたと報告されている。

ここで，採集された遺物は第34・35図に示した。

採集遺物はいずれも土器片で器形は明らかでない。２は四角錐状の突起を付けている。３は横位の凸帯，４は縦位の三角凸帯を貼り付けている。５～６は上げ底の底部である。色調は茶褐色，暗褐色を呈している。

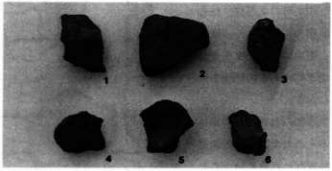


第34図　スセン當遺跡の採集遺物

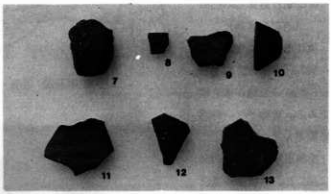
(2) 千間遺跡 (95—56)

知名町の西部，正名集落の南端にある。県道より海岸へ広がる中位段丘の平坦な畑地にある。

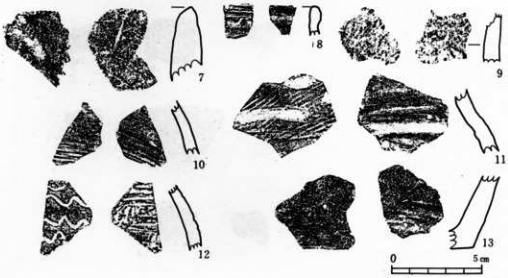
採集した遺物は第36・37図に示した。7は甕形土器の口縁である。褐色で胎土に金雲母，砂粒を含んでいる。8・10～17はすべて類須恵器である。8は口縁で青灰色を呈する。9は内面にナデ調整が施されている。11～12は壺の肩部で，11は粘土の継目痕がみられ，内外面とも凹凸を呈する。外面は斜位の条痕が施されている。12はヘラ描きの波状沈線文を施文し，内面は条痕状に調整されている。青灰色を呈する。13は底部である。



第35図　スセン嘗遺跡の採集遺物



第36図　千間遺跡の採集遺物



第37図　千間遺跡の採集遺物

(3) 浜須遺跡(95—42)

知名町の北西部，田皆集落の西部にあり，集落と海岸の中ほどを南北に走る町道わきの畑地の中にある。

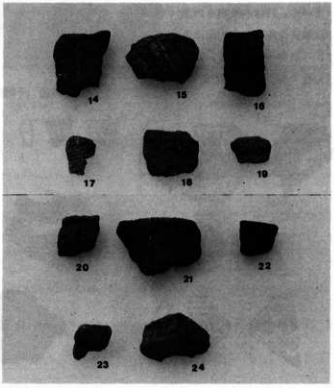
遺物の散布がわずかにみられたが，畑の天地返しが行われたということであった。

(4) 泊り遺跡(95—55)
(浜須B遺跡)

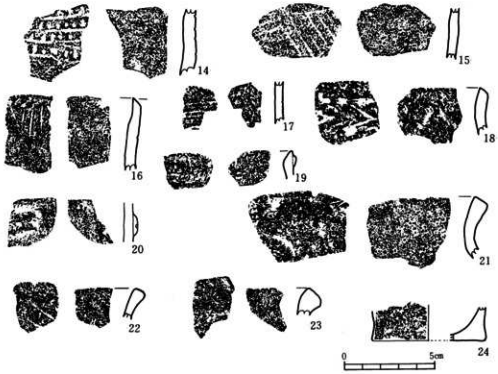
浜須遺跡から海岸の方へ500m位行った，標高15m～25mの畑地が本遺跡である。遺物が広い範囲に散布している。

採集遺物は第39・40図に示した。14は深鉢で沈線の間に連続刺突文が施されている。褐色を呈する。嘉徳Ⅰ式である。15～18は嘉徳Ⅱ式と思われる。16は口縁部が波状口縁となっている。いずれも，暗褐色・褐色をしている。19は口縁端に刻み凸帯を付したものである。20は台形状の突起を付け，その中心に刺突が施されている。21～23は口縁部である。21～22は黒褐色，23は褐色を呈する。いずれも宇宿上層式と思われる。24は底部である。

第38図　浜須・泊り遺跡の地形



第39図　泊り遺跡の採集遺物



第40図　泊り遺跡の採集遺物

第10表　知名町遺跡地名表(1)

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
95－1	住吉	住吉金久	台地	縄文	土器・石斧・貝輪・槌石・石皿	奄美自然と文化(九学会編)S32調査
2	屋子母	屋子母 植村	丘陵		土器・石斧・槌石	ふるさと知名町(知名町教委会編)
3	神野	大津勘 神野	砂丘	縄文	南島系土器・石器・貝製品	南西諸島の先史時代に於ける考古学的基礎研究(鹿大法文学部考古学研究室1984)
4	スセン倉	屋子母スセン倉	砂丘	古墳	南島系土器・石斧・貝輪・貝玉	S57調査
5	石原	余田 石原	台地	縄文	土器・石器・貝器	沖永良部島調査報告所(沖国大南島文化研究所1981)
6	赤嶺原	赤嶺 赤嶺432	台地	縄～歴	土器・須恵質土器・青磁・白磁	S60調査
7	当ノ増	屋子母 当ノ増	砂土		土器・石器	
8	長浜(神野貝塚)	大津勘 長浜	砂丘	縄文	土器(室川下層式・市来式)磨石・貝製品	沖永良部島調査報告所(沖国大南島文化研究所1981)S57調査
9	上城跡	上城 次石ほか	山麓	歴史		西目カニジョウ屋敷
10	西目国内兵庫城跡	下城 先開1234	山麓			知名町誌(1982)
11	中甫洞穴	久志検水窪662・663	鍾乳洞	縄～古	土器(爪形文)・石器・人骨	中甫洞穴(鹿大考古17号1983) 中甫洞穴(知名町教委会1984)
12	永良部洞穴	瀬利覚 スマン辻	山腹		類須恵器・獣骨・白磁	
13	水連洞	大津勘 連水俣	丘陵			(町)昭41.3.26)

第11表　知名町遺跡地名表(2)

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
95—14	田皆岬カルスト地帯	田皆　矢灘仁屋	海岸			(町)昭41.3.26
15	大津勘浜ビーチロック	大津勘	砂丘			〃
16	珊瑚礁	瀬利覚　小米　知名	海岸			〃
17	大山ヘゴの自然林	瀬利覚　上山巳田	山腹			〃
18	沖泊アダンの自然林	新城　阿陽	砂丘			〃
19	屋者城珠式古墳跡	屋者　勝丸1053	平地			〃
20	屋子母セージマ古墳跡	屋子母　妻妻	丘陵			〃
21	昇竜洞	住吉　吉野平川	山腹			(県)昭42.3.31
22	アーニマガヤ古墳跡	赤嶺　マガヤ	丘陵			(町)昭46.9.1
23	新城花窟ニャート墓	新城	平地			(町)昭52.12.24
24	浜倉	屋子母　源手名	〃			(町)昭55.6.30
25	大型有孔虫化石産地	下平川　瀬田原	〃			(町)昭58.3.28
26	イクサィヨー洞穴	余田字石嘉喜	洞穴	縄一古	人骨・土器・貝輪等	
27	花城洞穴	上平川字花城	〃			
28	芹清良前金久	芹清良字前金久	砂丘		類須恵器	
29	塩津類ビ	屋子母字塩津類ビ	丘陵			
30	泊り原	〃　泊り原	〃		無文土器	
31	川春	〃　川春	砂丘		青磁片	
32	大津勘フーダトゥ	大津勘字フーダトゥ	台地		石斧	
33	大津勘フバト	大津勘字フバト	〃		類須恵器・白磁	
34	木部麓迫	住吉字木部麓迫	〃		無文土器・青磁片	
35	友留	〃　友留	〃		無文土器	
36	手殿	〃　手殿	〃		青磁・染付	
37	正名内間	正名字内間	〃		類須恵器・白磁	
38	志良部当	〃　志良部当	〃			
39	田階伊美田	田皆字伊美田	〃		磨製石斧	
40	アンギム	下城字アンギム	〃		無文土器・類須恵器	
41	曽根	田皆字曽根	〃	古墳	土器片・チャート片	
42	浜須	〃　浜須	〃	古～歴	土器片・類須恵器	
43	伊舎良	正名字伊舎良	〃	〃	土器片	
44	池原	〃　池原	〃	〃	類須恵器・青磁	
45	帯野	〃　帯野	〃	〃	土器片	
46	三仁堂A	〃　三仁堂	〃	〃	土器片・類須恵器	
47	三仁堂B	〃　〃	〃	〃	〃　〃	

第12表　知名町遺跡地名表(3)

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
95—48	ウロク畑A	正名字ウロク畑	台地	古～歴	ふいご羽口・鉄滓	
49	ウロク畑B	〃　〃	〃	〃	土器片	
50	ウロク畑C	〃　〃	〃	〃	〃	
51	前当	上平川字前当219	〃	〃	類須恵器・鉄滓	昭62発掘
52	下平川1	下平川	〃	中世	類須恵器	
53	下平川2	〃	〃	〃	〃	
54	下平川3	〃	〃	〃	〃	
55	泊り(浜須B)	田皆字泊	〃	縄文	土器片	
56	千間	正名字千間	〃	中世	類須恵器	

3　与論町の遺跡

与論町の遺跡調査は昭和29～30年に九学会連合の調査により，朝戸から磨製石斧，類須恵器片などの発見が報告されている。その後，与論町における最初の考古学的発掘調査が実施され，朝戸遺跡からフェンサ下層式土器，類須恵器等が出土し，ヤドンジョウ遺跡からは沈線文土器喜念Ⅰ式土器等の出土が報告され，さらに，平成元年度町教育委員会により上城・上城遺跡の発掘調査が行われ，住居跡(19基)，土器(細沈線の土器等)，貝製品，骨格器，獣骨，魚骨等が

第41図　①北登五良遺跡・②茶治遺跡・③ハギビナ遺跡

出土したと報告されている。

さて，鹿児島県の遺跡地名表によれば5ケ所の遺跡と2ケ所の城跡が報告されている。今回の調査では3ケ所の遺跡を確認した。以下概要を述べる。

(1) ハギビナ遺跡 (96－6)

町の南西部ハキビナ浜の西側にある。

槌石の採集が報告されている。

(2) 北登五良遺跡 (96—17)

県道与論島循環線よりハキビナ浜の方へ250m入った所にある。小高い森である。そこは,「入ってはいけない所」と言われ，農地整備事業区域から外された所である。道路から約2m位上がった所に大きな珊瑚の石灰岩があり，供え物をした所がある。その所で石斧を採集した。

第42図　北登五良遺跡遠景

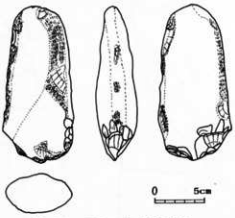
採集遺物は第43・44図に示した。1の石斧は輝緑岩製の石斧である。最大長15.8cm，最大幅7.1cm，厚さ3.9cm，加工痕跡も見られ，刃部は両面から研摩を施している。側面には敲打痕が見られる。刃部の1部が欠損している。

第43図　北登五良遺跡の採集遺物

(3) 茶治遺跡 (96—16)

町の南西部，ハキビナ浜の東側の畑地に本遺跡がある。遺跡を横切るように排水路が通っていて，その側面に貝層が見られる。遺跡の上部は一部削平されている。畑地には貝殻や土器片が散布している。また，井戸も畑の中にある。

採集遺物は第47・48・49図に示した。

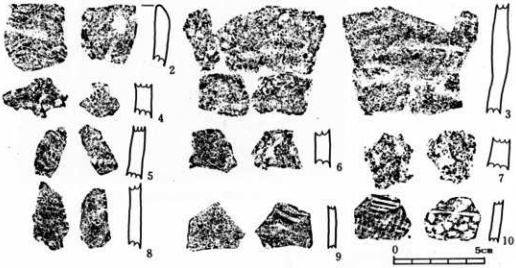


第44図　北登五良の採集遺物

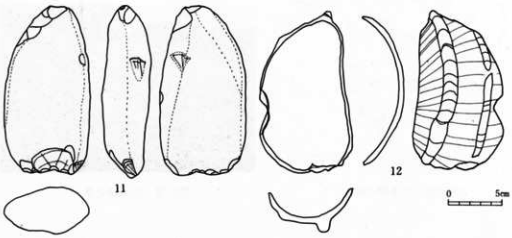
2は口縁部で，滑石が混入されている。色調は暗茶褐色である。3～8は土器片で器形は明らかでない。3～6は茶褐色，7～8は灰茶褐色で，焼成は良くない。9～10は類須恵器である。9の外面に叩き締めの痕がみられ，内面は同心円状の痕跡が見られる。色調は内面は青灰色，外面は暗灰色である。10は内外面は黄灰色を呈する。11は輝緑岩製の打製石斧である。刃部はわずかに加工痕が見られるが，欠損したり，摩耗したりしている。12は夜光貝製の貝容器である。器部は楕円形をし，内面は真珠層がみえ，

第45図　茶泊遺跡近景

第46図　茶泊遺跡の貝層



第47図　茶泊遺跡採集遺物(1)



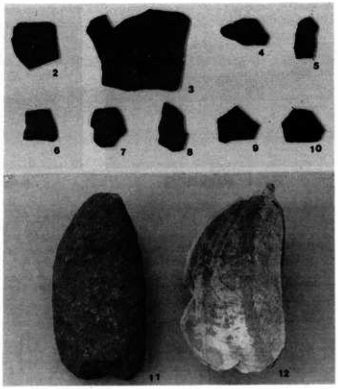
第48図　茶泊遺跡採集遺物(2)

外面は外皮がある。縁は研摩してある。

(4) 正遺跡 (96—18)

本遺跡は西区麦屋地区にある。その西区に麦屋井戸（ニジャ井戸）と呼ばれる湧水泉がある。井戸の西側は小高い台地になり，集落地となっている。集落の中が遺跡となっている。

採集遺物は小さな土器片だけで，図示するに至らなかった。



第49図　茶泊遺跡の採集遺物

第50図　正遺跡の地形

第51図　正遺跡近景

第13表　与論町遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
96－1	朝戸	朝戸	台地	縄～中世	フェンサ式・類須恵器・染付	「与論島の先史時代」1956
2	麦屋	麦屋693	台地	縄～弥	喜念式・宇宿上層式	
3	古里	古里	台地			「南島先史時代」1959
4	茶花	茶花	砂丘			
5	城	立長城	丘陵	中世	青磁	
6	立長ハギビナ	立長ハギビナ	台地		輪石	「奄美―自然と文化」1959
7	与論城	立長3303	丘陵	中世		〔町〕昭51.2.20
8	供利一本松	立長1073の1				〃
9	屋川	麦屋3404	平地			〃
10	ガジュマルと黒木	〃 2877				〃
11	アスンジョウ	〃 882				〃
12	太田氏宅散布地	朝戸	台地	縄～		「奄美―自然と文化」1959
13	片岡氏宅散布地	麦屋	台地	縄～		
14	ヤドンジョウ	麦屋ヤドンジョウ	台地	縄～弥	喜念式・宇宿上層式	「与論島の先史時代」1981
15	上城	麦屋字アマミツ	丘陵	縄～弥	住居跡・土器・貝製品・獣骨等	平元発掘
16	茶泊	立長字茶泊	平地	～中世	石斧・貝製容器・類須恵器	
17	北登五良	茶花字北登五良	台地		石斧	
18	正	麦屋字正	台地		土器片	

第4節　まとめにかえて

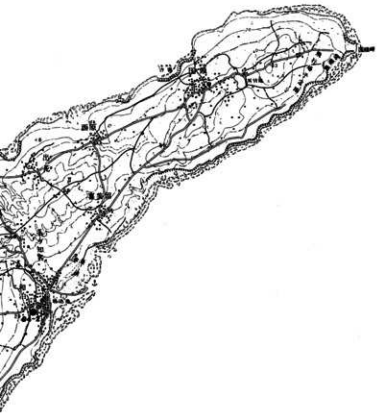
今回の調査において両島とも表土のすぐ下が珊瑚礁の石灰岩になっているところが多い。このため，農作物に適しなかったり，農作業においても不便であった。このような状況下で，個々の農家では畑の天地返しを行っているところも見られる。その為，遺跡が壊されているところも見られる。

沖永良部島では，遺跡は北東部は少なく，南西部に多く分布している。多くは湧線地付近や海岸付近にある。今回の採集遺物も，嘉徳Ⅰ式，嘉徳Ⅱ式，面縄西洞式，宇宿上層式などであった。

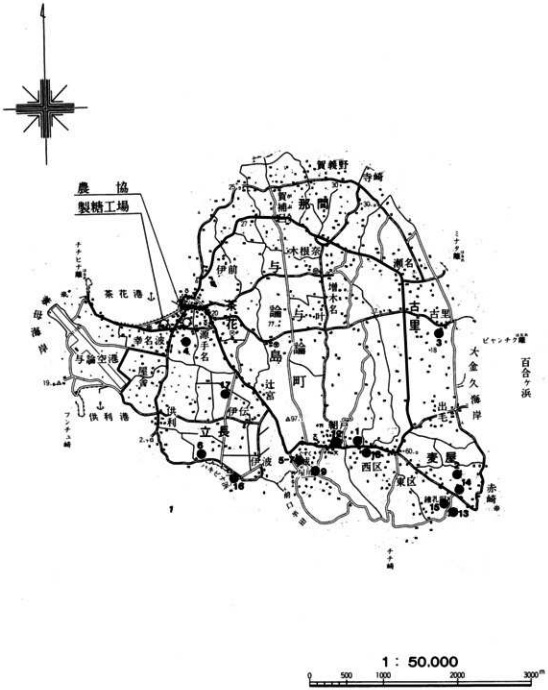
また，和泊町の小手野遺跡を試掘した結果，外耳土器系の土器が多数出土した。表採では，石鏃，石斧など採集した。

与論島では，遺跡は北部の方にはあまり見られず，南部の方に多く見られる。発掘調査箇所も少ないため，古代の様子も十分明らかにされていない。今回の調査でも３ケ所の遺跡を発見した。１つは貝塚で，無文土器，石斧，類須恵器などで中世ごろまでの遺跡と思われる。他の２ケ所は石斧と土器片だけで今後の調査の結果を待ちたい。

第52図　沖永良部島の遺跡の分布図



0 2 km



第53図　与論町の遺跡分布地図

引用　参考文献

「茶の間の地球科学」 鹿児島県教育地質調査団　昭和56.7

「鹿児島県市町村別遺跡地名表」 鹿児島県教育委員会　1979.3

河口貞徳　「奄美における土器文化の編年について」『鹿児島考古』9号　1974.6

河口貞徳・上村俊雄　「嘉徳遺跡」『鹿児島考古』10号　1974.10

河口貞徳・本田道輝　「中甫洞穴」『知名町埋蔵文化財発掘調査報告書』(1)

河口貞徳・本田道輝　「中甫洞穴」『知名町埋蔵文化財発掘調査報告書』(2)

上村俊雄・本田道輝　「沖永良部島スセン當貝塚発掘調査概要」『鹿大考古』2号

上村俊雄　「沖永良部島の考古学」『鹿大考古』2号

「知名町誌」 知名町　1982

戸崎勝洋・牛ノ浜修　「知名町埋蔵文化財分布調査概報」『知名町文化財報告書』(5) 1986

吉永正史・堂込秀人　「上城跡・上城遺跡」『与論町埋蔵文化財発掘調査報告書』(1)

吉永正史・牛ノ浜修・堂込秀人　「面縄貝塚群」『伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書』(4) 1985

新東晃一・青崎和憲　「カムィヤキ古窯跡群Ⅰ」『伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書』(3) 1985

新東晃一・青崎和憲・井ノ上秀文　「カムィヤキ古窯跡群Ⅱ」

『伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書』(5) 1985

鹿児島県埋蔵文化財調査報告書(56)

奄美地区埋蔵文化財分布調査報告書Ⅲ

発行日　平成3年3月

発　行　鹿児島県教育委員会
鹿児島市山下町14－50

印　刷　アルプス印刷有限会社
鹿児島市郡元二丁目20－21
TEL(0992)55－9323